

全国農業



2022年(令和4年)

6月17日

金曜日
月4回金曜日発行

首都圏

傾斜地に囲まれた小区画水田の地域にもめげず

水田を借り受け 栽培面積増やす

市川三郷町の網倉委員



【山梨】日本三大急流の一つ・富士川流域の市

川三郷町六郷地区は、傾斜地に囲まれた小区画の水田で自家飯米を栽培する中山間地域。同地区で耕作面積を増やしながら

ら、2018年から農地利用最適化推進委員、21年から農業委員として活躍するのが網倉秀太郎さん(69) Ⅱ写真Ⅱだ。網倉さんは農家の跡取りで幼いころから米作りに携わった。医療機器などの設計業に就職してからも、おいしい米を作りたいという信念で米作りを続けてきたという。近年は高齢化とともに米作りをリタイアする農家が増え、特に農業委員会活動に関わってからは

「水田を借りてほしい」という相談を受けることが多くなった。網倉さんの所有水田は20㌥ほどだが、耕作する水田は現在3㌥までになった。また、県内各地のマルシェでは、米の販売と一緒に妻の手作りの試食用おにぎりを提供している。「今後さらに多くのお客さまに作りたてのおにぎりや地域の農産物を販売したい」という夢とともに、「農業委員として自分が育った地区の農業景観を次世代に残したい」と語っている。